

# 四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校  
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和4年 11月1日 第8号  
TEL 048-477-6053 URL [www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon](http://www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon)



## 見えないものを見る力

校長 鮫島 弘樹

その一角にだけ人が集まっており、しかも皆がニコニコとほほ笑んでいます。ある駅前に広がるデッキでの光景です。好奇心にまかせて近寄ってみると、1人の男性が壁に激突して派手にひっくり返る姿が見えました。立ち上がって2、3歩進んだ男性は、ドアから出ていこうとしますが、今度はなかなかドアが開きません。取り囲む人々は心配するどころか、時折笑い声を上げながら見守っています。

実際には、そこに壁もドアもありません。そうです、大道芸人さんがパントマイムを披露しているところでした。

ないはずのものが、あたかもその場にあるように見える高い演技力に感嘆し、そのまま最後まで見続けてきました。

メディアの1つに、「オーディオドラマ」と呼ばれるジャンルがあります（ラジオドラマとも呼ばれます）。セリフとナレーション、効果音などだけでドラマのストーリーを展開させていくのです。もちろん、映像は一切ありません。

ところが、耳を傾けていると、登場人物の姿やドラマの舞台となっている場所など、情景がくっきりと頭に浮かんでくるのです。室内の場面では間取りや調度品の様子まで、ぼんやりと見えてきます。

多様な語彙（ごい）や表現を巧みに使い、人物の感情や状況を繊細に描写する、脚本家の技量が求められるのでしょう。

同時に、ドラマを聴く側にも、感性を豊かにはたらかせ、送り手の意図を汲む力が求められます。

パントマイムやオーディオドラマなど、限られた情報を基に、足りない部分を頭で補いながら楽しむ芸術や文学は、お互いの「想像力」があってこそ成り立つ、優雅で味わい深い文化だと感じます。

「これで相手にちゃんと伝わるだろうか？」という発信側の想像力と、「こう伝えたいのだろうか」という受け手側の想像力、その両方が必要です。

撮った画像を簡単に送れる時代ではありますが、思いのすべてを言葉や画像として相手に届けられる訳ではありません。だからこそ、足りない情報を想像力によって補う、いわゆる「行間を読む」力を高めておくことが大事になってきます。

そのことは将来、大人になってから役立つだけではありません。身近に起こりがちな、言葉の行き違いや思い込みによるSNSなどのトラブルを避けることにもつながっていくはずです。

四中生の皆さんには、YouTube やテレビ、TikTok など、「見ればすぐに分かる情報」ばかりでなく、「想像力を要する情報」にも、意識して多く触れておくことをお勧めします。

最も手軽なのは本の世界でしょう。また、オーディオドラマや落語、講談などはちょっと渋いようですが、中学生でも十分面白いと感じるはずです。

想像力を働かせながら楽しむ、ゆったりとした秋の夜長を過ごしてみたいかがでしょうか。